FutureNet NXR-130/C

ユーザーズガイド　GUI編

v5.4.0対応版

CENTURY SYSTEMS

目次

はじめに

◆ご注意

1 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信の機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

2 通信情報が漏洩した事による経済的、精神的損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複写することを禁じます。

4 本書およびソフトウェア、ハードウェア、外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。

5 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

◆商標の表示

□「FutureNet」はセンチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。

□下記製品名等は米国Microsoft Corporationの登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Vista

□下記製品名等は米国Apple Inc.の登録商標です。
Macintosh、Mac OS X

その他、本書で使用する各会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

ご使用にあたって

本製品を安全にお使いいただくために、まず以下の注意事項を必ずお読みください。

絵表示について	この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。 内容をよく理解してから本文をお読みください。

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる「危害や損害の程度」を説明しています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

🚫	このような絵表示は、してはいけない「禁止」を意味するものです。 それぞれに具体的な禁止内容が書かれています。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」を指示するものです。 それぞれに具体的な指示内容が書かれています。

⚠ 危険

- ❗ 必ず本体に付属している電源ケーブルをご使用ください。
- 🚫 使用温度範囲は0°C～40°Cです。この温度範囲以外では使用しないでください。
- 🚫 ストーブのそばなど高温の場所で使用したり、放置しないでください。
- 🚫 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
- 🚫 製品の隙間から針金などの異物を挿入しないでください。

ご使用にあたって

⚠ 警告

- 万一、異物(金属片・水・液体)が製品の内部に入った場合は、まず電源を外し、お買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。
- 万一、発熱していたり、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災の原因となります。すぐに電源を外し、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 本体を分解、改造しないでください。けがや感電などの事故の原因となります。
- 本体または AC アダプタを直射日光の当たる場所や 、調理場や風呂場など湿気の多い場所では絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- AC アダプタの電源プラグについたほこりはふき取ってください。火災の原因になります。
- 濡れた手で AC アダプタ、コンセントに触れないでください。感電の原因となります。
- AC アダプタのプラグにドライバなどの金属が触れないようにしてください。火災・感電・故障の原因となります。
- AC100V の家庭用電源以外では絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

ご使用にあたって

⚠ 注意

湿気やほこりの多いところ、または高温となるところには保管しないでください。故障の原因となります。

乳幼児の手の届かないところに保管してください。けがなどの原因となります。

長期間使用しないときには、AC アダプタをコンセントおよび本体から外してください。

AC アダプタの上に重いものを乗せたり、ケーブルを改造したりしないでください。また、AC アダプタを無理に曲げたりしないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

AC アダプタは必ず電源プラグを持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルに傷が付き、火災・感電・故障の原因となることがあります。

近くに雷が発生したときには、AC アダプタをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。落雷が火災・感電・故障の原因となることがあります。

AC アダプタのプラグを本体に差し込んだ後に AC アダプタのケーブルを左右および上下に引っ張ったり、ねじったり、曲げたりしないでください。緩みがある状態にしてください。

本製品に乗らないでください。本体が壊れて、けがの原因となることがあります。

高出力のアンテナや高圧線などが近くにある環境下では、正常な通信ができない場合があります。

パッケージの内容物の確認

本製品のパッケージには以下のものが同梱されております。
本製品をお使いいただく前に、内容物がすべて揃っているかご確認ください。

万が一不足がありましたら、お買い上げいただいた店舗または弊社サポートデスクまでご連絡ください。

＜FutureNet NXR-130/C 梱包物＞

NXR-130/C　本体	１台
はじめにお読みください	１部
安全にお使いいただくために	１部
LANケーブル（ストレート、１m）	１本
RJ-45/D-sub9ピン変換アダプタ（クロス）	１個
ACアダプタ	１個
海外使用禁止シート	１部
保証書	１部
ゴム足（必要に応じて、本体底面の四隅に貼ってください）	４個

第 1 章

本装置の概要

I．本装置の特長

FutureNet NXR-130/C（以下NXR-130 または、本装置）には、以下のような特徴があります。

◆NGNへの対応

FutureNet NXR-130/CはIPv6、マルチキャスト、ハードウェアQoS回路による高精度のトラフィック管理といったNGNに必要な機能をサポートします。 NTT東日本、NTT西日本がNGNを利用した商用サービスとして提供する｢フレッツ光ネクスト｣と､同サービスを利用した低コスト型のIP-VPNサービスである「フレッツ・VPNワイド」で利用できることを確認しています。もちろんXRシリーズで搭載していたIPsec、L2TPv3もサポートします。

◆3つの独立したイーサネットポートとUSBポート

FutureNet NXR-130/Cは3つのギガビットイーサネットポート（RJ-45）を搭載しています。例えばインターネット接続用、DMZ用、LAN用、監視用にそれぞれ異なるイーサネットポートを割り当てるような構成が可能です。柔軟なフィルタ設定と組み合わせて幅広いネットワーク構成に対応できます。ギガビットイーサネットポートは最大約1Gbps(※1)の転送性能を持ちます。また、暗号化処理専用のハードウェアを搭載しており､VPN利用時には最大約200Mbpsのスループットを目標としています。

※1 パケットサイズ 1500byteでのIXIAによるIP Forwarding性能測定結果。

◆モバイルデータ通信、ISDN通信のサポート

FutureNet NXR-130/CのUSBポートにはNTTドコモ、KDDI、イーモバイル、IIJモバイルから提供されるモバイルデータ通信端末を接続することができます（予定)。モバイルデータ通信はWAN回線として、もしくは主回線のバックアップ用として利用できます。また、ISDNインタフェースの搭載にも対応可能です(※2)。

※2 ISDNインタフェースの搭載については弊社営業部までお問い合わせ下さい。

◆コマンドによる設定

FutureNet NXRシリーズではすべての設定はコマンドラインでおこないます。これによって熟練のネットワーク管理者は楽に設定がおこなえます。また、ネットワーク機器の設定に不慣れなユーザにとってもサンプル設定の取り込みが容易になるメリットがあります。設定のバックアップ/リカバリーなども簡単におこなえます。また、WEB画面による簡易設定機能もサポートしています。

Ⅰ．本装置の特長

◆豊富な運用管理機能

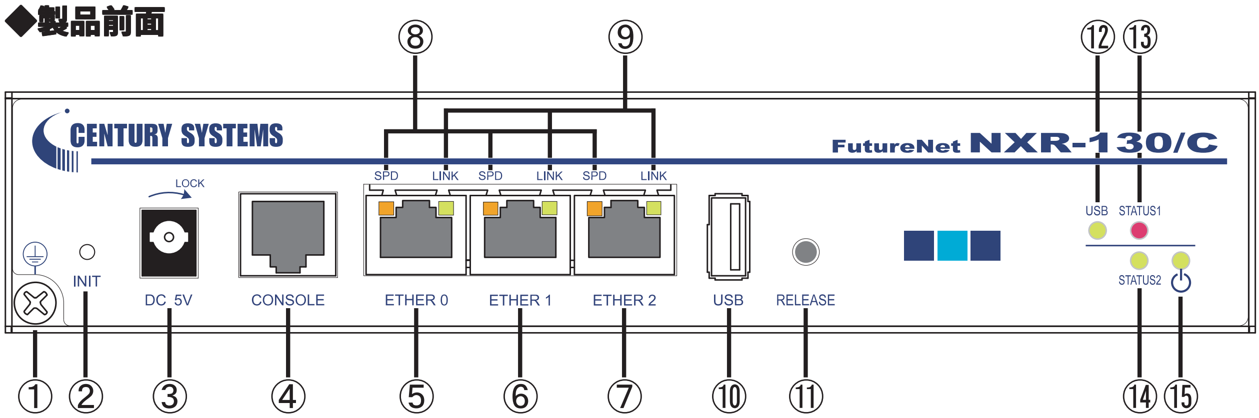
FutureNet NXR-130/C は Ping や traceroute、パケットキャプチャなどの診断機能を備えています。また、SNMP や SYSLOG による運用ログの収集はもちろん、電子メールによるログの送信もできます。オプションの USB flash メモリ（Memory Media USB-128:別売）を利用すれば大容量のログを残すことができ、本体の電源切断後でも障害時の原因調査や外部からの不正アタックの解析等に役立ちます。USB flash メモリには設定情報も保存できるため、機器の故障時には代替装置に USB メモリを差込んで運用を継続できます。
また、サービス事業者による運用を考慮し、インターネット側からの設定変更を許可するリモート管理機能や、自動ファームウェア更新機能、NXR専用管理ツールによるコンフィグ管理やダイナミック VPN 設定、動作状態のリアルタイム表示画面（WEB ブラウザ対応）の提供等も予定しています。

◆消費電力の低減に配慮したハードウェア

FutureNet NXR-130/Cは企業での厳しい運用要件に耐えられるようハードウェアも強化しています。19インチラックに組み込んでの使用を考慮し、コネクタ類は電源も含めすべてフロントからのアクセスとなります。筐体は19インチラックに2台横に並べられるサイズで、取り付けのためのラックマウントキットはオプションで提供します。ACアダプタのコネクタはロック可能な機構となっており、電源ケーブルの誤脱によるネットワークの停止を防止します。また、消費電力も通常時約8W、最大9.5W と、消費電力対性能比の大幅な向上(当社従来製品比)を実現しています。

II．各部の名称と機能

◆製品前面



① FG(アース）端子
保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。

② INITボタン
本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。
1.Initボタンを押しながら電源を投入します。
2.STATUS1 LEDが下記の状態になるまで、Initボタンを押したままにしておきます。
点灯→消灯→点灯
3.STATUS1 LEDが再度点灯したら、Initボタンを放します。STATUS1 LEDが消灯し、本装置が工場出荷設定で起動します。

③ DC5V電源コネクタ（ロック機構付き）
製品付属のACアダプタを接続します。
電源コネクタの溝に、DCプラグのツメを合わせて、右に回してください。電源コードがロックされます。
電源コードを外す時は、DCプラグ部分を持って左に戻してから抜いてください。

本装置をご使用の際は必ず、電源コードをロックしてご使用ください。

④ CONSOLEポート
CLI接続の場合に使用します。
Ethernet規格のLANケーブルを接続します。

⑤ ETHER 0ポート
主にLAN側ポートとして使用します。

⑥ ETHER 1ポート
主にWAN側ポートとして使用します。

⑦ ETHER 2ポート
主にDMZポートとして使用します。

本装置の各ETHERポートは、全てGigabit Ethernetに対応しています。別セグメントを接続するポートとして使用可能です。
また、ポートはAuto-MDI/MDIX対応です。
Ethernet規格のLANケーブルを接続してください。

⑧ SPEED LED（緑/橙）
ETHERNETポートの接続速度を表示します。
10BASE-Tモードで接続時 ：
100BASE-TXモードで接続時 ：
1000BASE-Tモードで接続時 ：

⑨ LINK/ACT LED（緑）
ETHERNETポートの接続状態を表示します。
Link Down時 ：
Link UP時 ：
データ通信時 ：

⑩ USBポート
USB flashメモリを装着します。

II．各部の名称と機能

⑪ RELEASEボタン

USB flashメモリを取り外すときに使用します。
本装置からUSB flashメモリを取り外すときは、以下の手順で操作してください。

1. RELEASEボタンの長押し(約3秒)
2. USB LEDの消灯を確認
3. USB flashメモリの取り外し

⑫ USB LED（緑）

USBステータスを表示します。

USB flashメモリ装着時　：●
USB flashメモリが未装着時　：●

⑬ STATUS1 LED（赤）

本装置のシステム起動時のステータスを表示します。

システム起動中　：●
システム起動完了状態　：●
ファームウェアのアップデート作業中：●

> これら以外の状態で、STATUS1が点滅している時はシステム異常が起きておりますので、弊社までご連絡ください。

⑭ STATUS2 LED（緑）

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを表示します。

システム起動中　：●
サービス起動中　：●
サービス起動完了状態　：●

STATUS LEDが以下の状態になると、本装置へのアクセスが可能になります。

STATUS1 LED　：●
STATUS2 LED　：●

⑮ POWER LED（緑）

本装置の電源状態を表示します。

電源投入時　：●

III．動作環境

本製品をお使いいただくには、以下の環境を満たしている必要があります。

◆ハードウェア環境

・本製品に接続するコンピュータの全てに、LAN インタフェースがインストールされていること。

・ADSL モデム /CATV モデム /ONU に、10BASE-T、100BASE-TX または 1000BASE-T のインターフェースが搭載されていること。

・本製品と全てのコンピュータを接続するためのハブやスイッチングハブが用意されていること。

・本製品と全てのコンピュータを接続するために必要な種類のネットワークケーブルが用意されていること。

◆ソフトウェア環境

・TCP/IP を利用できる OS がインストールされていること。

・接続されている全てのコンピュータの中で少なくとも１台に、InternetExplorer4.0 以降か NetscapeNavigator4.0以降がインストールされていること。

なおサポートにつきましては、本製品固有の設定項目と本製品の設定に関係する OS 上の設定に限らせていただきます。
OS 上の一般的な設定やパソコンにインストールされた LAN ボード / カードの設定、各種アプリケーションの固有の設定等のお問い合わせについてはサポート対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

第 2 章

装置の設置

装置の設置

本装置の各設置方法について説明します。
下記は設置に関する注意点です。よくご確認いただいてから設置してください。

注意！

本装置は直射日光が当たるところや、温度の高いところには設置しないようにしてください。
内部温度が上がり、動作が不安定になる場合があります。

注意！

AC アダプタのプラグを本体に差し込んだ後に AC アダプタのケーブルを左右および上下に引っ張らず、緩みがある状態にしてください。
抜き差しもケーブルを引っ張らず、コネクタを持って行ってください。
また、AC アダプタのケーブルを足などで引っ掛けてプラグ部に異常な力が掛からないように配線にご注意ください。

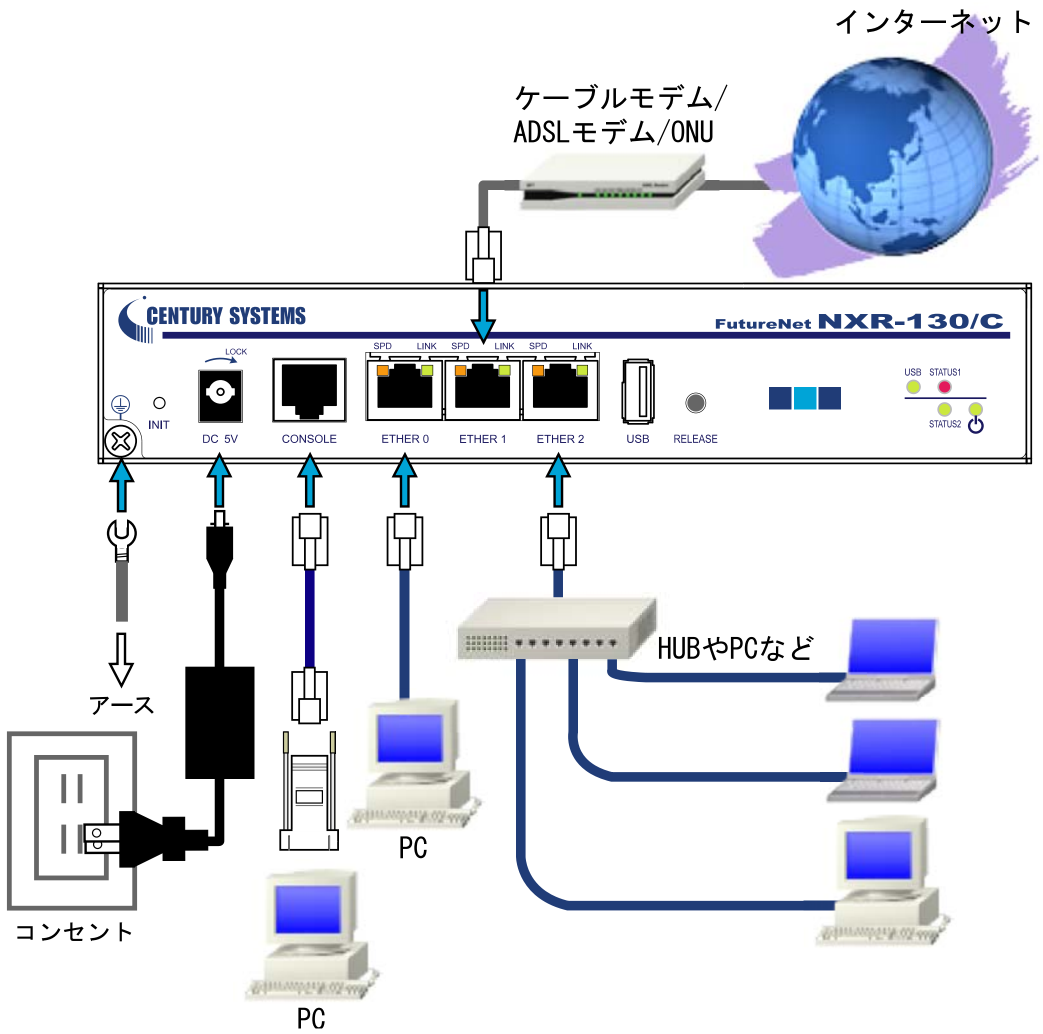
注意！

本装置側でも各ポートで ARP table を管理しているため、PC を接続しているポートを変更するとその PC から通信ができなくなる場合があります。このような場合は、本装置側の ARP table が更新されるまで(数秒～数十秒)通信できなくなりますが、故障ではありません。

装置の設置

NXR-130とPCやxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUは、以下の手順で接続してください。

接続図＜例＞



1 NXR-130とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が“OFF”になっていることを確認してください。

2 NXR-130の前面にあるETHER 1ポートと、xDSL/ケーブルモデムやONUを、LANケーブルで接続してください。

3 NXR-130の前面にあるETHER 0ポート、ETHER 2ポートと、PCをLANケーブルで接続してください。

※ 工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 NXR-130とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

本装置の全てのEthernetポートは、Auto-MDI/MDIX対応です。

第 3 章

コンピュータのネットワーク設定

Ⅰ．Windows XP のネットワーク設定

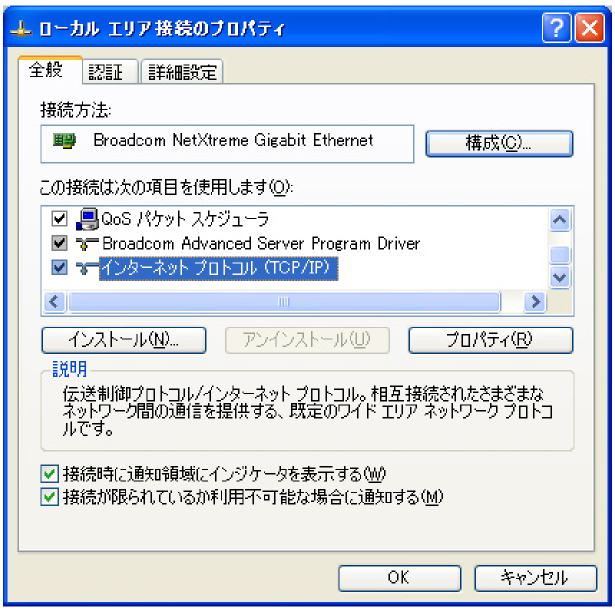
ここではWindowsXPが搭載されたコンピュータのネットワーク設定について説明します。

1 「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」から、「ローカル エリア接続」を開きます。

2 「ローカル エリア接続の状態」画面が開いたらプロパティをクリックします。

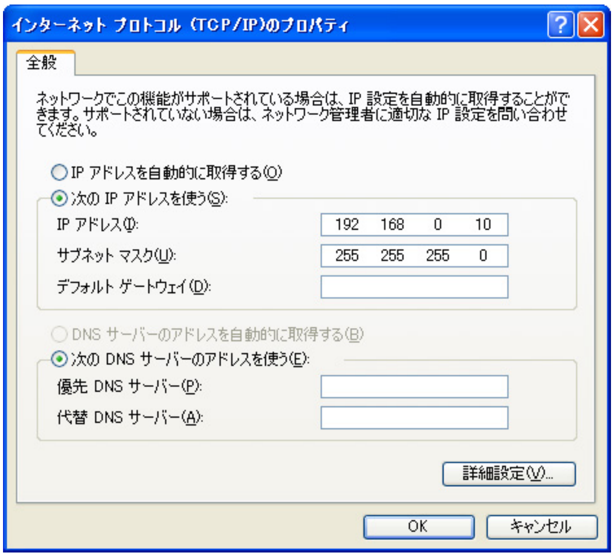


3 「ローカル エリア接続のプロパティ」画面が開いたら、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択して「プロパティ」ボタンをクリックします。



4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の画面では、「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れて以下のように入力します。

IP アドレス「192.168.0.10」
サブネットマスク「255.255.255.0」
デフォルトゲートウェイ「空欄」



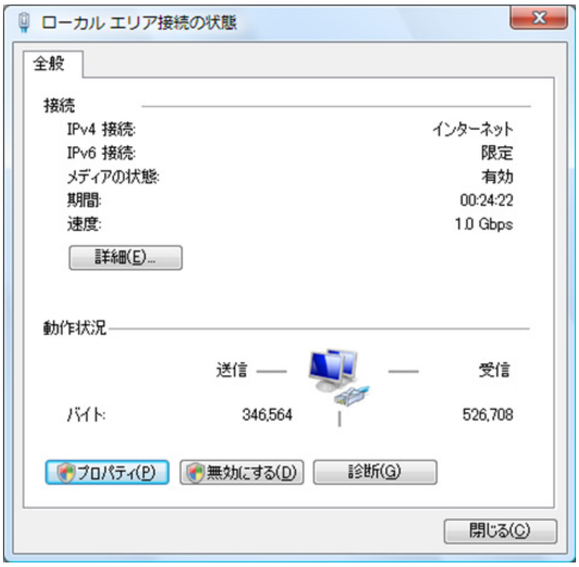
5 最後にOKボタンをクリックして設定完了です。これで本装置へのログインの準備が整いました。

Ⅱ．Windows Vista のネットワーク設定

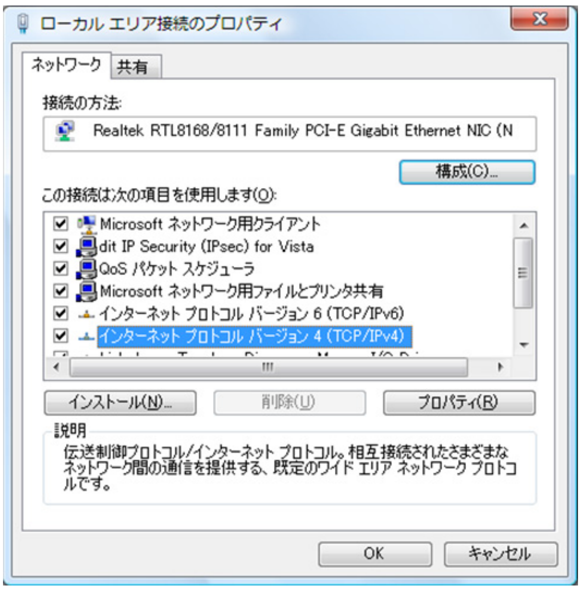
ここではWindows Vistaが搭載されたコンピュータのネットワーク設定について説明します。

1 「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」→「ネットワーク接続の管理」から、「ローカル エリア接続」を開きます。

2 「ローカル エリア接続の状態」画面が開いたらプロパティをクリックします。

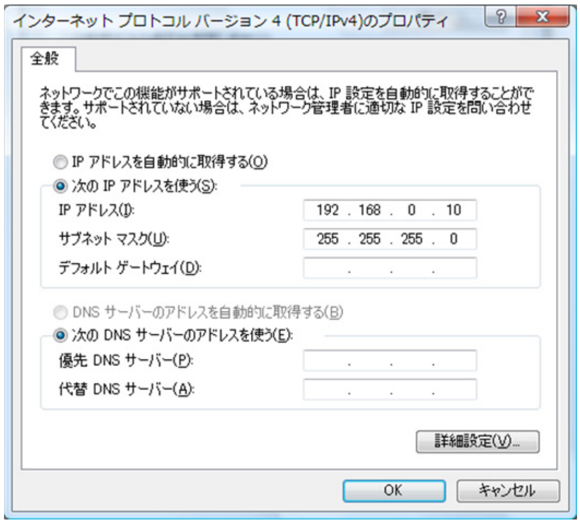


3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が開いたら、「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択して「プロパティ」ボタンをクリックします。



4 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」の画面では、「次のIPアドレスを使う」にチェックを入れて以下のように入力します。

IP アドレス「192.168.0.10」
サブネットマスク「255.255.255.0」
デフォルトゲートウェイ「空欄」



5 最後にOKボタンをクリックして設定完了です。これで本装置へのログインの準備が整いました。

第3章 コンピュータのネットワーク設定

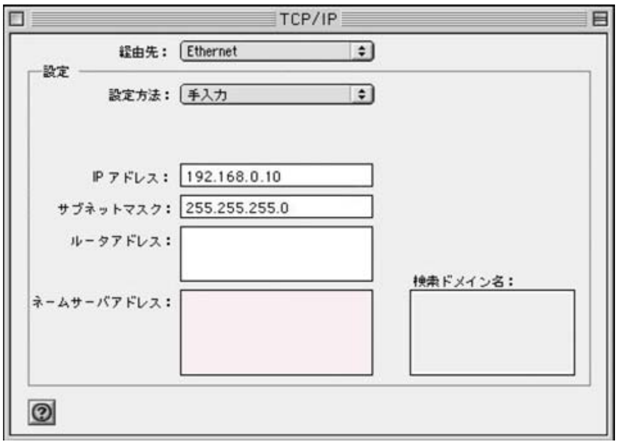
III. Macintosh のネットワーク設定

ここではMacintoshのネットワーク設定について説明します。

1 「アップルメニュー」から「コントロールパネル」→「TCP/IP」を開きます。

2 経由先を「Ethernet」、設定方法を「手入力」にして、以下のように入力してください。

IP アドレス「192.168.0.10」
サブネットマスク「255.255.255.0」
ルータアドレス「空欄」



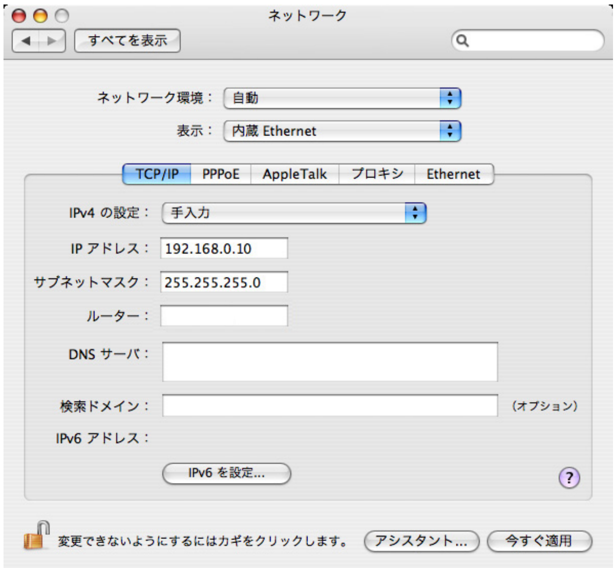
3 ウィンドウを閉じて設定を保存します。その後Macintosh本体を再起動してください。これで本装置へログインする準備が整いました。

ここでは、Mac OS Xのネットワーク設定について説明します。

1 「システム環境設定」から「ネットワーク」を開きます。

2 ネットワーク環境を「自動」、表示を「内蔵Ethernet」、IPv4の設定を「手入力」にして、以下のように入力してください。

IP アドレス「192.168.0.10」
サブネットマスク「255.255.255.0」
ルーター「空欄」



3 ウィンドウを閉じて設定の変更を適用します。これで、本装置へログインする準備が整いました。

第４章

設定画面へのログイン

I. 設定画面へのログイン

◆はじめに

本装置の工場出荷設定状態時では、HTTPサーバが起動していないため、GUIアクセスは出来ません。GUI画面にアクセスするには、まずCLIで本装置にログインし、HTTPサーバを起動して下さい。

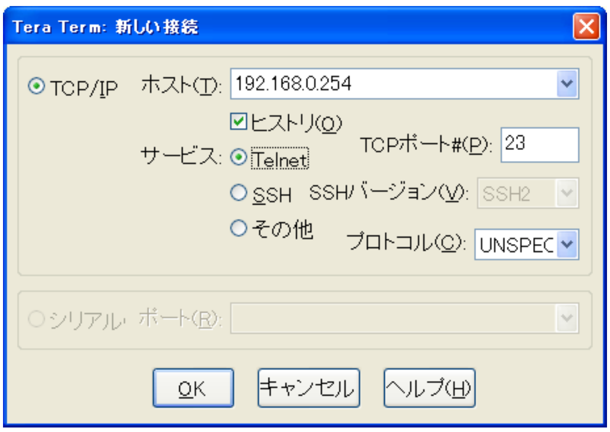
◆GUI画面へのアクセス手順

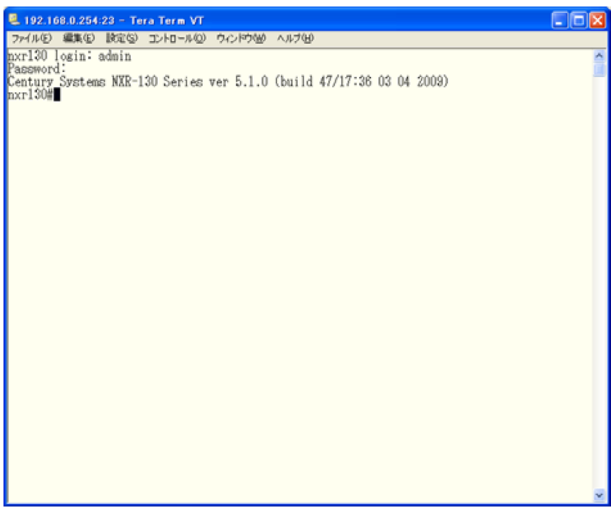
1. CONSOLE/TELNETで、CLIにアクセスします。
   - CONSOLE接続
     本装置のCONSOLE(RS-232C)ポートと接続したPCからアクセスします。
   - TELNET接続
     本装置のETHER 0 ポートと接続したPC からアクセスします。
     ※ 工場出荷設定では、ETHER 0にIPv4アドレス(192.168.0.254)が設定されています。
2. HTTPサーバを起動します。
3. 本装置のETHER 0ポートと接続したPCから、WebブラウザでGUI画面にアクセスします。

I. CLIへのアクセス方法(TELNETの場合)

1. 本装置のETHER 0ポートとPCをLANケーブルで接続します。
2. PCからTELNET接続を開始すると、ログイン画面が表示されます。
3. ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。

<画面はTeraTermによるTelnetのログイン画面です>

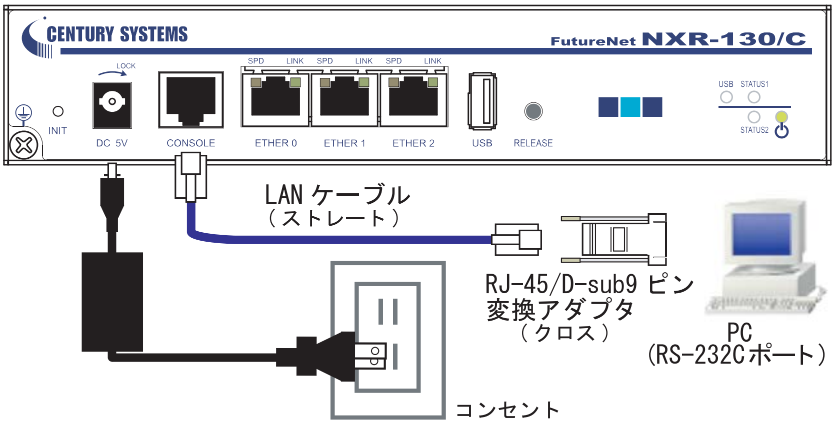




以上で本装置へのログインは完了です。

I．設定画面へのログイン

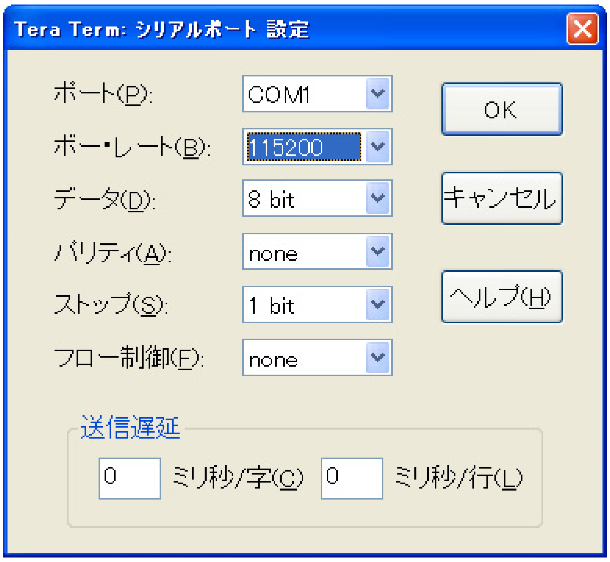
I．CLIへのアクセス方法(CONSOLEの場合)



1．本装置を接続したPC で、設定用のターミナルソフト(TeraTerm 等)を起動します。

2．接続条件設定は以下のように設定します。< 設定例(TeraTerm での接続設定画面)>

※ 設定方法については、ご使用の各ターミナルソフトの説明書をご覧ください。



3．「Return」キーまたは「Enter」キーを押すと、ログイン画面が表示されます。

4．ユーザ名、パスワード共に「admin」（工場出荷設定）を入力してログインします。

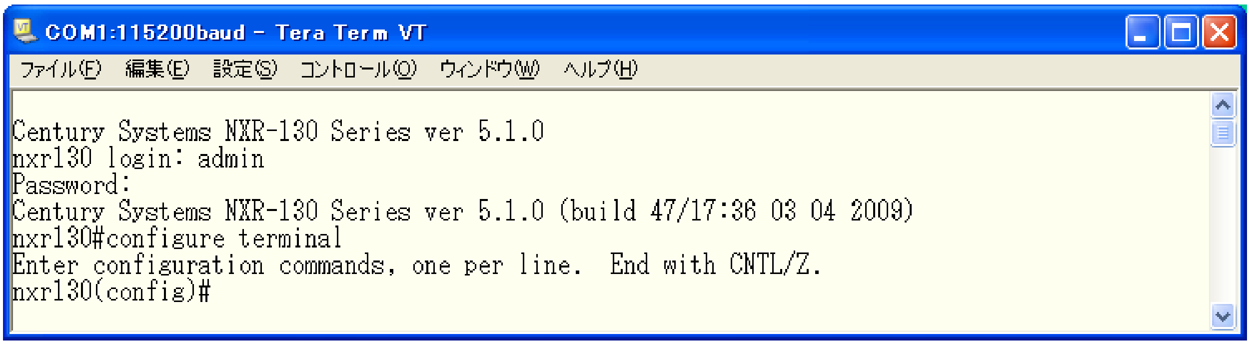


以上で本装置へのログインは完了です。

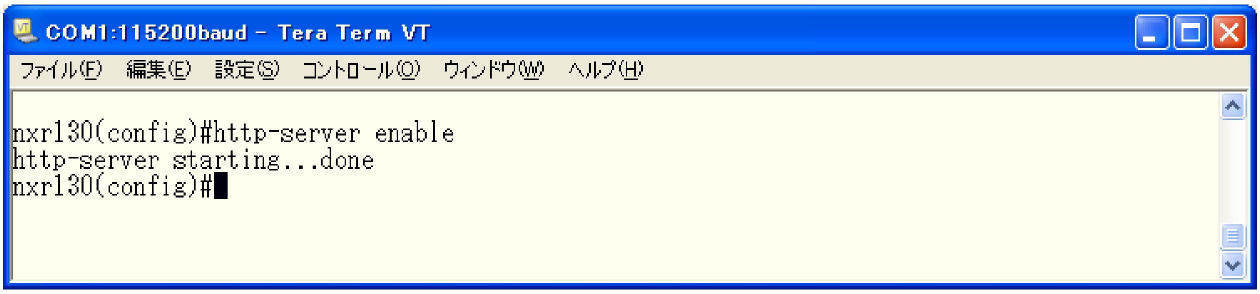
I. 設定画面へのログイン

II. HTTPサーバの起動

1. CLIにログインした後、“configure terminal”コマンドで、CONFIGURATIONモードに移行します。



2. “http-server enable”コマンドを実行して、HTTPサーバを起動します。



以上で、HTTPサーバの起動は完了です。

III. 設定画面へのログイン

1. 本装置のETHER 0ポートとPCをLANケーブルで接続します。

2. PCでWebブラウザを起動します。

ブラウザのアドレス欄に、以下のIPアドレスとポート番号を入力してください。

http://192.168.0.254:880/

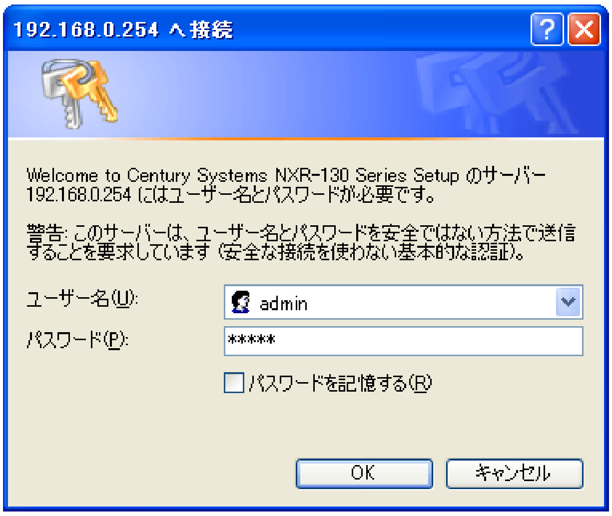
※192.168.0.254は、ETHER 0ポートの工場出荷時のIPアドレスです。アドレスを変更した場合は、そのアドレスを指定してください。**設定画面のポート番号880は変更することができません。**

<次ページに続く>

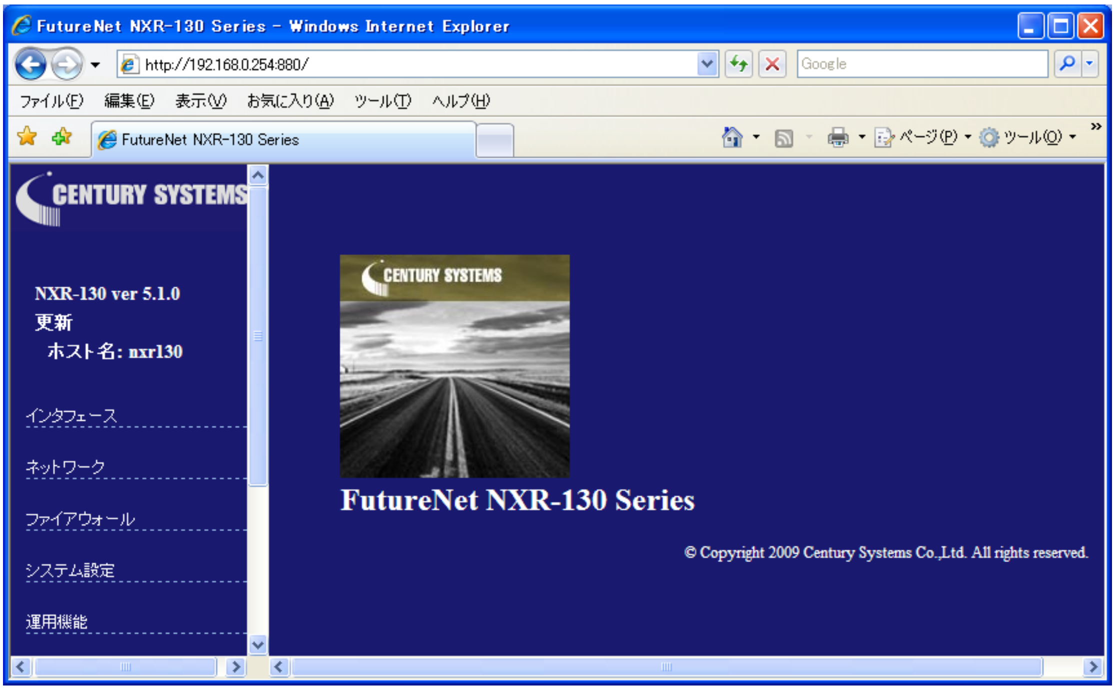
Ⅰ. 設定画面へのログイン

3. 認証ダイアログ画面が表示されます。ユーザ名、パスワード共に「admin」（工場出荷設定）を入力してログインします。





4. 下記のような画面が表示されます。



以上で、本装置の設定画面へのログインは完了です。

II. GUIで設定可能な項目

本装置のGUIで設定可能な項目の一覧です。

[インタフェース]

Ethernet I/F
- Ethernet

PPP I/F
- PPPアカウント
- PPPoE

[ネットワーク]

IPv4
- スタティックルート
- 固定ARP

DHCP
- DHCPネットワーク
- DHCPホスト
- DHCPリレー

DNS

NTP

[ユーザインタフェース]

SSH
- SSHサービス
- SSH鍵（netconf）

NETCONF
- NETCONF

CRP
- CRPグローバル
- CRPクライアント

[ファイアウォール]

アクセスリスト
- IPv4アクセスリスト

[システム設定]

- 本装置のパスワード
- ホスト名

ログ
- システムログ
- ログメール

設定情報
- 設定の保存
- 設定の復帰
- 設定のリセット

ファームウェア
- アップデート

- 内蔵時計
- 再起動

[運用機能]

ネットワーク診断
- Ping
- Traceroute

パケットダンプ
- 実行
- 結果表示

ログ情報
- システムログ

システム情報
- システム情報

- サポート情報

第 5 章

インタフェース設定

1. Ethernet

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
インタフェース
　Ethernet Ⅰ/F
　　・Ethernet

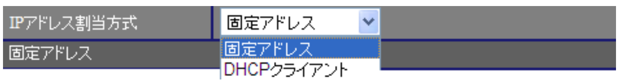
■ Ethernet

インタフェース	IPアドレス	MTU	リンクモード	編集
ethernet0	192.168.0.254/24	1500	auto	編集
ethernet1		1500	auto	編集
ethernet2		1500	auto	編集

設定したいインタフェースを選択して「編集」をクリックします。

ethernet1	
IPアドレス割当方式	固定アドレス
固定アドレス	
IPアドレス	
DHCPクライアント	
ホスト名	
インタフェース	
Keepalive	10
MTU	1500
リンクモード	自動
詳細設定	編集
PPPoE	編集
フィルタ	編集
	保存

○ IPアドレス割当方式
「固定アドレス」/「DHCPクライアント」をプルダウンから選択してください。



[固定アドレス]
○ IPアドレス
「固定アドレス」を選択した場合に入力してください。IPアドレス/マスクビット値の形式で入力してください。
[入力例]　192.168.1.254/24

[DHCPクライアント]
○ホスト名
「DHCPクライアント」を選択した場合に入力してください。必要がなければ、空欄でも構いません。

[インタフェース]
○ Keepalive
Ethernetポートのリンク状態を定期的に監視します。OSPFの使用時にリンクダウンを検知した場合、そのインタフェースに関連付けられたルーティング情報の配信を停止します。再度リンク状態がアップした場合には、そのインタフェースに関連付けられたルーティング情報の配信を再開します。監視間隔は、1-60[秒]の間で設定できます。また、0を設定すると、リンク監視を行いません。デフォルト値は、10[秒]です。

○ MTU
「Path-MTU-Black-HOLE」現象が発生した場合等は、ここの値を変更することで回避できます。通常は初期設定の1500[バイト]のままで構いません。

○リンクモード
リンクモードをプルダウンから選択してください。工場出荷設定は「自動」です。



設定を保存するには、「保存」をクリックします。

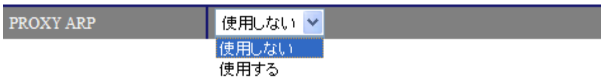
●詳細設定



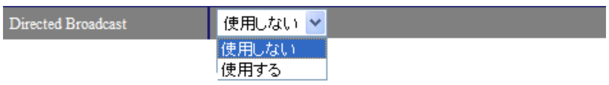
「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。



○ PROXY ARP
「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

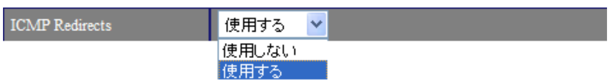


○ Directed Broadcast
「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、Directed Broadcastの転送を許可します。
「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。



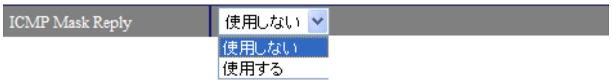
<u>Directed Broadcast</u>
IPアドレスのホスト部がすべて1のIPアドレスのことです。
(例) 192.168.0.0/24のDirected Broadcastは、192.168.0.255です。

○ ICMP Redirects
「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、ICMP Redirectsを送出します。
「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。



<u>ICMP Redirects</u>
他に適切な経路があることを通知するICMPパケットのことです。

○ ICMP Mask Reply
「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。



ネットワーク監視装置によっては、LAN内装置の監視をICMP Address Maskの送受信によって行う場合があります。「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにて受信したICMP Address Mask Request (type=17)に対して、Reply(type=18)を返送し、インタフェースのサブネットマスク値を通知します。「使用しない」を選択すると、Requestに対して応答しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

I. Ethernet I/F

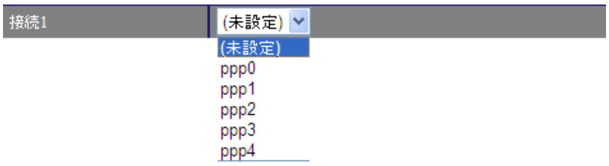
● PPPoE



「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。



接続番号を選択し、プルダウンからインタフェースを選択します。



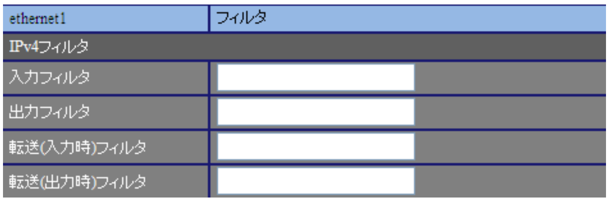
設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PPPoE接続の設定については、
「第５章 インタフェース設定 のII.PPP /IF」を参照してください。

●フィルタ



「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。



[IPv4フィルタ]

○入力フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

○出力フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

○転送（入力時）フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

○転送（出力時）フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

フィルタの設定については、
「第８章 ファイアウォール」を参照してください。

II. PPP I/F

1. PPP アカウント

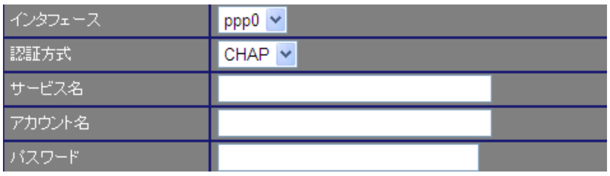
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
インタフェース
　PPP I/F
　　・PPP アカウント

■PPP アカウント

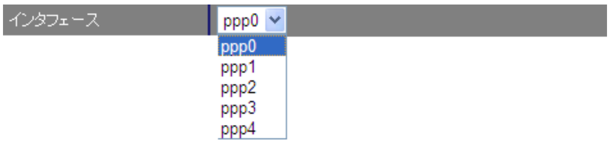


PPP アカウントの追加

「追加」をクリックします。



〇インタフェース
使用するインタフェースをプルダウンから選択します。



〇認証方式
認証方式をプルダウンから選択します。



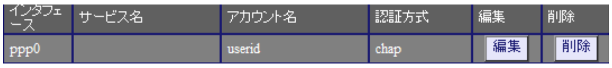
〇サービス名
サービス名を入力します。

〇アカウント名
プロバイダから指定されたアカウントを入力してください。

〇パスワード
プロバイダから指定された接続パスワードを入力してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PPP アカウントの編集



PPP アカウントを編集するには「編集」をクリックします。



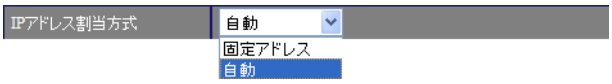
●TCP/IP



「編集」をクリックします。

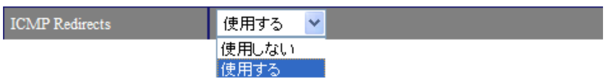


〇 IP アドレス割当方式
「自動」/「固定アドレス」をプルダウンから選択します。



〇 IP アドレス
「固定アドレス」を選択した場合に、入力します。

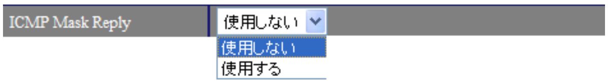
〇 ICMP Redirects
「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、ICMP Redirects を送出します。
「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。



ICMP Redirects
他に適切な経路があることを通知する ICMP パケットのことです。

○ ICMP Mask Reply

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。



ネットワーク監視装置によっては、LAN内装置の監視をICMP Address Maskの送受信によって行う場合があります。「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにて受信したICMP Address Mask Request (type=17)に対して、Reply(type=18)を返送し、インタフェースのサブネットマスク値を通知します。「使用しない」を選択すると、Requestに対して応答しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

● PPP



「編集」をクリックします。



[セッション]

○自動接続

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。

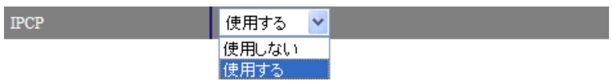


○リトライ間隔

30-600[秒]の間で設定します。デフォルト値は60[秒]です。

○ IPCP

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。



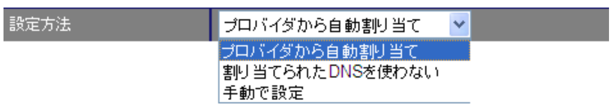
[DNSサーバ]

○設定方法

特に指定のない場合は、「プロバイダから自動割り当て」を選択します。

指定されている場合は「手動で設定」を選択して、DNSサーバのIPアドレスを入力します。

プロバイダからDNSアドレスを自動割り当てされても、そのアドレスを使用しない場合は「割り当てられたDNSを使わない」を選択します。この場合は、LAN側の各ホストにDNSサーバのアドレスをそれぞれ設定しておく必要があります。



II. PPP I/F

○プライマリサーバ
○セカンダリサーバ
「手動で設定」を選択した場合に、DNS サーバの IP アドレスを入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

●インタフェース

インタフェース	編集

「編集」をクリックします。

ppp0	インタフェース
MTU	1454
MRU	1454
LCPキープアライブ	
キープアライブ	使用する
送信間隔	30
送信回数	3
ICMPキープアライブ	
キープアライブ	使用しない
送信間隔	
送信回数	
宛先IPアドレス	

◯ MTU

デフォルト値は1454[バイト]です。Bフレッツ・フレッツADSLの場合は、デフォルト値のままでかまいません。

◯ MRU

デフォルト値は1454[バイト]です。Bフレッツ・フレッツADSLの場合は、デフォルト値のままでかまいません。

[LCPキープアライブ]

◯キープアライブ

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

キープアライブ	使用する 使用しない 使用する

◯送信間隔

キープアライブに使用するLCP echoパケットの送信間隔を指定します。

30-600[秒]の間で設定します。デフォルト値は30[秒]です。

◯送信回数

LCP echoを指定回数送信して、一度もreplyを受信しなかった場合に、本装置がPPPoEセッションをクローズします。

0-10[回]の間で設定します。デフォルト値は3[回]です。

[ICMPキープアライブ]

◯キープアライブ

回線によっては、LCP echoを使ったキープアライブを使うことが出来ない場合があります。その場合は、Pingを使ったキープアライブを使用します。

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

キープアライブ	使用しない 使用しない 使用する

◯送信間隔

キープアライブに使用するPingの送信間隔を指定します。

30-600[秒]の間で設定します。デフォルト値は30[秒]です。

◯送信回数

Pingを指定回数送信して、一度もreplyを受信しなかった場合に、本装置がPPPoEセッションをクローズします。

0-10[回]の間で設定します。デフォルト値は3[回]です。

◯宛先IPアドレス

Pingの宛先ホストを指定します。空欄にした場合は、P-t-P Gateway宛にPingを送信します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

●フィルタ

フィルタ	編集

「編集」をクリックします。

ppp0	フィルタ
IPv4フィルタ	
入力フィルタ	
出力フィルタ	
転送(入力時)フィルタ	
転送(出力時)フィルタ	

［IPv4 フィルタ］

〇入力フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

〇出力フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

〇転送（入力時）フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

〇転送（出力時）フィルタ
適用するフィルタ名を入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

フィルタの設定については、「第８章 ファイアウォール」を参照してください。

PPP アカウントの削除

インタフェース	サービス名	アカウント名	認証方式	編集	削除
ppp0		userid	chap	編集	削除

PPP アカウントを削除するには「削除」をクリックします。

2. PPPoE

地域IP網での工事や不具合、またADSL回線の不安定な状態によって、正常にPPPoE接続が行えなくなることがあります。

これはユーザー側がPPPoEセッションが確立していないことを検知していても、地域IP網側はそれを検知していないために、ユーザー側からの新規接続要求を受け入れることができない状態になっていることが原因です。

ここでPPPoE特殊オプション機能を使うことにより、本装置がPPPoEセッションを確立していないことを検知し、強制的にPADTパケットを地域IP網側へ送信して、地域IP網側にPPPoEセッションの終了を通知します。

本装置からPADTパケットを送信することで、地域IP網側のPPPoEセッション情報がクリアされ、PPPoEの再接続性を高めることができます。

PADT = PPPoE Active Discovery Terminateの略。PPPoEセッションが終了したことを示すパケットです。これにより、PADTを受信した側で該当するPPPoEセッションを終了させます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース
　PPP I/F
　　・PPPoE

■ PPPoE

PADT強制送出	
前セッションPADT	有効
Unknwon IPv4 Packet	有効
Unknwon LCP-Echo Request	有効

[PADT強制送出]

○前セッションPADT

回線接続時に前回のPPPoEセッションのPADTを強制送出します。

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。



○Unknwon IPv4 Packet

非接続セッションのIPv4パケット受信時にPADTを強制送出します。

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。



○Unknwon LCP-Echo Request

非接続セッションのLCP echo request受信時にPADTを強制送出します。

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。



設定を保存するには、「保存」をクリックします。

地域IP網の工事後にPPPoE接続が出来なくなってしまう事象を回避するためにも、PPPoE特殊オプション機能を有効にした上でPPPoE接続をしていただくことを推奨します。

第 6 章

ネットワーク

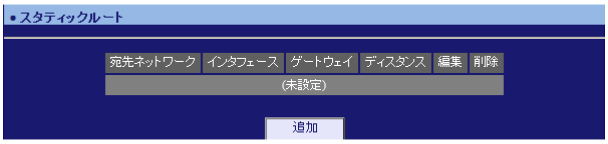
第6章 ネットワーク

I. IPv4

1. スタティックルート

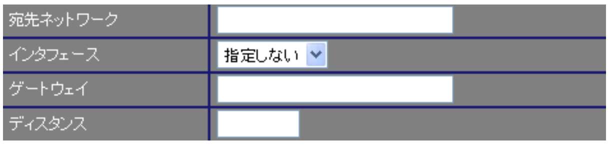
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　IPv4
　　・スタティックルート

■スタティックルート



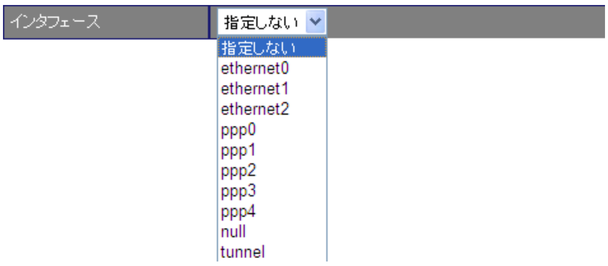
スタティックルートの追加

「追加」をクリックします。

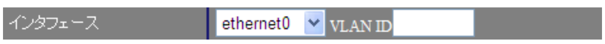


○宛先ネットワーク
ネットワークアドレス/マスクビット値の形式で入力してください。
[入力例]　192.168.100.0/24
　　　　　192.168.200.254/32

○インタフェース
プルダウンからインタフェースを選択します。



VLANインタフェースを指定する場合は、該当するethernetインタフェースを選択し、VLAN IDを入力してください。VLAN IDは、1-4094の間で設定します。



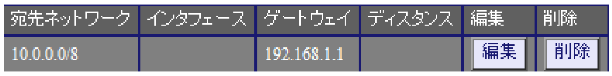
○ゲートウェイ
インタフェースを「指定しない」に選択した場合、上位ルータのIPアドレスを入力します。

○ディスタンス
経路選択の優先順位を指定します。1-255の間で指定します。値が小さいほど優先度が高くなります。
スタティックルートのデフォルトディスタンス値は1です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

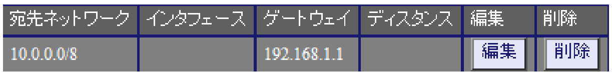
スタティックルートの編集

「編集」をクリックします。



スタティックルートの削除

「削除」をクリックします。



2. 固定ARP

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　IPv4
　　・固定ARP

■固定ARP



固定ARPの追加

「追加」をクリックします。



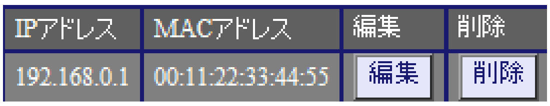
○ IPアドレス
[入力例]　192.168.0.1

○ MACアドレス
[入力例]　00:11:22:33:44:55

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

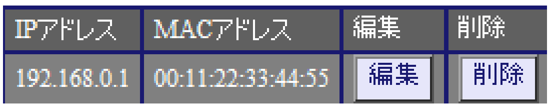
固定ARPの編集

「編集」をクリックします。



固定ARPの削除

「削除」をクリックします。



1. DHCP ネットワーク

DHCP サーバ機能の設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　DHCP
　　・DHCP ネットワーク

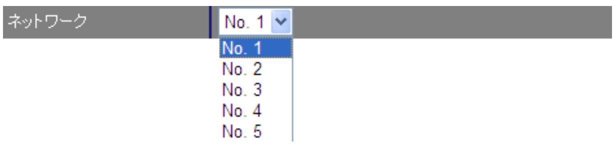
■ DHCP ネットワーク



DHCP ネットワークの追加
「追加」をクリックします。



○ネットワーク
ネットワーク番号をプルダウンから選択します。



○サブネット
DHCP サーバを動作させるネットワーク空間のアドレスを設定します。
[入力例]　172.16.0.0/16

○リース開始アドレス / リース終了アドレス
DHCP クライアントに割り当てる最初と最後の IP アドレスを指定します。両項目で設定した範囲の IP アドレスが、DHCP クライアントに割り当てられます。

○標準リース時間
DHCP クライアントに IP アドレスを割り当てる時間を指定します。
60-15552000[秒]の間で指定します。デフォルト値は 21600[秒]です。

○最大リース時間
DHCP クライアントが割り当て時間を要求した時の最大割り当て時間を指定します。指定した値以上のリース時間を要求された場合、リース時間は指定値で設定されます。
60-15552000[秒]の間で指定します。デフォルト値は 43200[秒]です。

○ゲートウェイ
DHCP クライアントのデフォルトゲートウェイとなるアドレスを入力してください。通常は、NXR のインタフェースの IP アドレスを指定します。

○ドメイン
DHCP クライアントに割り当てるドメイン名を指定します（任意で指定）。

○プライマリ DNS サーバ / セカンダリ DNS サーバ
DHCP クライアントに割り当てる DNS サーバアドレスを指定します（任意で指定）。

○プライマリ WINS サーバ / セカンダリ WINS サーバ
DHCP クライアントに割り当てる WINS サーバの IP アドレスを指定します。

○スコープ ID
NetBIOS スコープ ID を配布できます。TCP/IP を介して NetBIOS を実行しているコンピュータでは、同じ NetBIOS スコープ ID を使用するほかのコンピュータとのみ NetBIOS 情報を交換することができます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

DHCPネットワークの編集

「編集」をクリックします。

ネットワーク	サブネット	リース開始アドレス	リース終了アドレス	標準リース時間	編集	削除
1	172.16.0.0/16	172.16.0.101	172.16.0.200		編集	削除

DHCPネットワークの削除

「削除」をクリックします。

ネットワーク	サブネット	リース開始アドレス	リース終了アドレス	標準リース時間	編集	削除
1	172.16.0.0/16	172.16.0.101	172.16.0.200		編集	削除

2．DHCPホスト

DHCPサーバ機能で、固定IPアドレスを割り当てる場合の設定をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　DHCP
　　・DHCPホスト

■ DHCPホスト

• DHCPホスト

MACアドレス	IPアドレス	編集	削除
(未設定)			

追加

DHCPホストの追加

「追加」をクリックします。

MACアドレス	
IPアドレス	

○ MACアドレス
PCに装着されているLANボードなどのMACアドレスを入力します。
[入力例]　00:11:22:33:ff:ff

○ IPアドレス
割り当てるIPアドレスを指定します。
[入力例]　172.16.0.200

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

DHCPホストの編集

「編集」をクリックします。

MACアドレス	IPアドレス	編集	削除
00:11:22:33:44:55	172.16.0.200	編集	削除

DHCPホストの削除

「削除」をクリックします。

DHCPサーバ機能で、固定IPアドレスを割り当てる場合でも、DHCPネットワーク設定は必要です。その場合は、「DHCPサーバ設定」画面の「リース開始アドレス」「リース終了アドレス」に、「DHCPホスト」で指定したアドレス範囲の先頭と末尾のIPアドレスを指定してください。

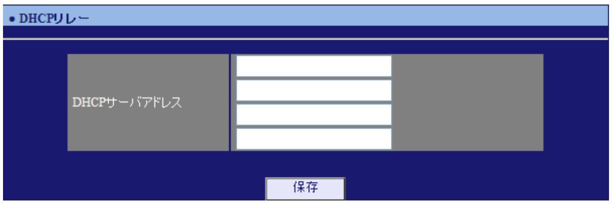
3. DHCP リレー

DHCP サーバと DHCP クライアントは、通常同じネットワークにないと通信できません。しかし、DHCP リレー機能を使うことで、異なるネットワークにある DHCP サーバを利用できるようになります。（NXR が DHCP クライアントからの要求と DHCP サーバからの応答を中継します。）

<u>**NAT 機能を使用している場合は、DHCP リレー機能は使用できません。**</u>

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　DHCP
　　・DHCP リレー

■ DHCP リレー



○ DHCP サーバアドレス
上位の DHCP サーバの IP アドレスを指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

◆DNS

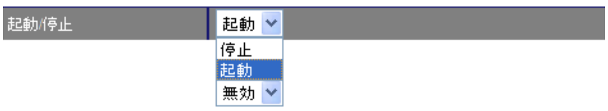
LAN内の各ホストのDNSサーバ設定に本装置のIPアドレスを指定することによって、ISPから指定されたDNSサーバや任意のDNSサーバへリレーすることができます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　・DNS

■DNS



○起動/停止
サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。



○タイムアウト
DNSサーバへの問い合わせが無応答の場合のタイムアウトを設定します。
5-30[秒]で設定できます。初期設定は30　秒です。
使用環境によっては、DNSキャッシュのタイムアウトよりもブラウザなどのアプリケーションのタイムアウトが早く発生する場合があります。
この場合は、DNSキャッシュのタイムアウトを調整してください。

○ルートDNS転送
設定したDNSサーバへの問い合わせに失敗した場合や、DNSサーバの指定が無い場合に、ルートサーバへ問い合わせをするかどうかを設定します。
プルダウンから「有効」/「無効」を選択します。



[DNSサーバ]
○サーバアドレス
任意のDNSサーバのIPアドレスを入力してください。
PPPoE接続時、ISPから指定されたDNSサーバへリレーする場合は本設定の必要はありません。

[プライオリティ]
○ユーザ
○ ppp0/ppp1/ppp2/ppp3/ppp4
○ DHCPクライアント
1-20の間で設定します。デフォルト値は20です。
同一プライオリティの場合の優先順位は、下記のとおりです。
ユーザ ＞ ppp4 ＞ ppp3 ＞ ppp2 ＞ ppp1 ＞ ppp0 ＞ DHCP

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

NTP

◆NTP

本装置は、NTP サーバ / クライアント機能を持っています。インターネットを使った時刻同期手法の一つであるNTP(Network Time Protocol)を用いてNTP サーバと通信を行い、時刻を同期させることができます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク
　・NTP

■NTP



○起動 / 停止
サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。



○同期タイムアウト
サーバ応答の最大待ち時間を 1-30[秒]の間で設定できます。

[プライマリ]
○アドレス
NTP サーバの IP アドレスを入力します。
NTP サーバの IP アドレスを入力しない場合は、本装置はNTP サーバとしてのみ動作します。

○（ポーリング最小値）
4-16 の間で指定します。デフォルト値は 6 です。

○（ポーリング最大値）
5-17 の間で指定します。デフォルト値は 10 です。

「(ポーリング最小値)」「(ポーリング最大値)」によって、NTP サーバと通信をおこなう間隔を設定します。
サーバとの接続状態により、指定した最小値と最大値の範囲でポーリングの間隔を調整します。

Polling 間隔 X(sec)を指定した場合、秒単位での間隔は 2 の X 乗(秒)となります。
< 例 4：16 秒、 6：64 秒、... 10：1024 秒>

[セカンダリ]
○アドレス
○（ポーリング最小値）/ ○（ポーリング最大値）
必要に応じて、プライマリと同様に設定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第7章

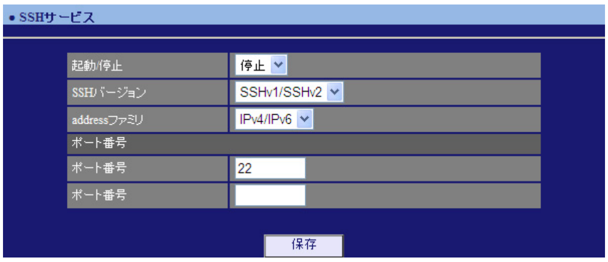
ユーザインタフェース

I. SSH

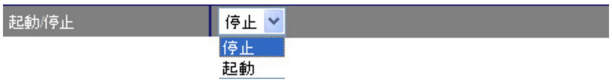
1. SSHサービス

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース
SSH
・SSHサービス

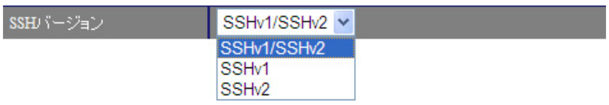
■SSHサービス



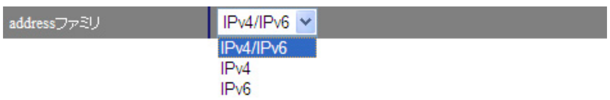
○ IP アドレス割当方式
「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。



○ SSHバージョン
「SSHv1/SSHv2」/「SSHv1」/「SSHv2」をプルダウンから選択します。



○ addressファミリ
「IPv4/IPv6」/「IPv4」/「IPv6」をプルダウンから選択します。



[ポート番号]
○ ポート番号
SSHサーバのポート番号を指定します。デフォルト値は22です。

○ ポート番号
SSHサーバのセカンダリポート番号を指定します。

2. SSH鍵(netconf)

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース
SSH
・SSH鍵(netconf)

■SSH鍵（netconf)



SSH鍵の追加

「参照」をクリックして、ファイル(SSH公開鍵)を指定します。「保存」をクリックすると、SSH鍵が設定されます。



SSH鍵の削除

「削除」をクリックします。



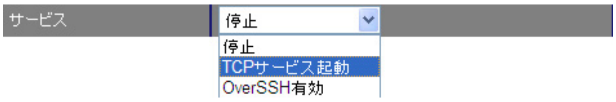
1．NETCONF

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース
　NETCONF
　　・NETCONF

■NETCONF



○ サービス
NETCONFサービスの「起動」/「停止」を設定します。
プルダウンから「停止」/「TCPサービス起動」/「OverSSH有効」を選択します。



○ lockタイムアウト
NETCONFによる設定変更時にlockが行われます。lock状態では、他の管理サーバまたはCLI/GUIからの設定変更は出来ません。また、CLI/GUIあるいは他の管理サーバから設定変更が行われている状態では、lockを行うことは出来ません。
lock状態が解除されるまでの時間を10-3600[秒]の間で設定します。デフォルト値は60[秒]です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

III. CRP

1. CRP グローバル

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース
　CRP
　　・CRP グローバル

■ CRP グローバル



○ 送信元ポート
CRP の送信元 UDP ポートを 1024-65535 の間で設定します。デフォルト値は、10625 です。

○ ホスト名
広告するホスト名を指定します。設定がない場合、システム設定
　　・ホスト名
で指定されたホスト名を広告します。

○ カスタマー ID
カスタマー ID を指定します。管理サーバ側のテナントコードと一致させてください。

○ CPE ID
CPE ID を指定します。管理サーバ側の機器コードと一致させてください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

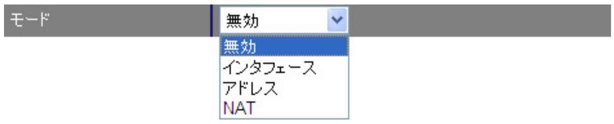
● CRP Advertise



「編集」をクリックします。



○ モード
プルダウンから「無効」/「インタフェース」/「アドレス」/「NAT」を選択します。



[primary]

○ アドレス family

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。

プルダウンから、「IPv4」/「IPv6」を選択します。



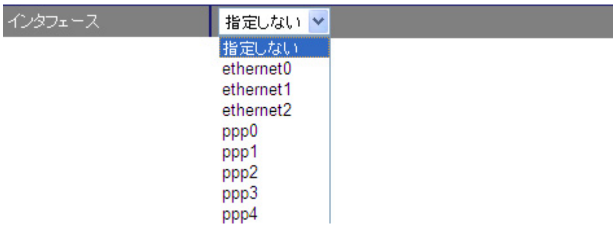
○ インタフェース

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。プルダウンから、インタフェースを選択します。

選択可能なインタフェースは、下記のとおりです。

「ethernet0」/「ethernet1」/「ethernet2」

「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」



○ アドレス

「モード」で「アドレス」を選択した場合に入力することができます。

広告する本装置の IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスを指定します。



○ ポート番号

「モード」で「インタフェース」、「アドレス」または「NAT」を選択した場合に入力することができます。

広告するポート番号を指定します。通常は 22 を指定してください。



[secondary]

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。

○ アドレス family

プルダウンから、「IPv4」/「IPv6」を選択します。



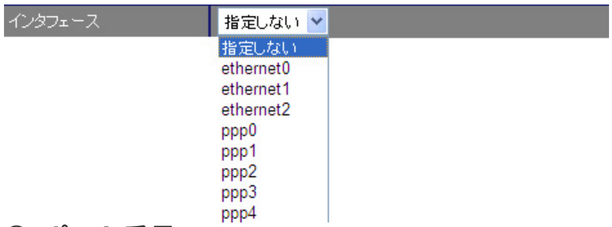
○ インタフェース

プルダウンから、インタフェースを選択します。

選択可能なインタフェースは、下記のとおりです。

「ethernet0」/「ethernet1」/「ethernet2」

「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」



○ ポート番号

広告するポート番号を指定します。通常は 22 を指定してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. CRP クライアント

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース
　CRP
　　・CRP クライアント

■ CRP クライアント



「追加」をクリックします。

○ number
クライアントの設定番号を、プルダウンから選択します。1 または 2 を指定してください。



○ アドレス
管理サーバのアドレスを設定します。「IPv4」/「IPv6」/「FQDN」形式で入力してください。



○ ポート番号
ポート番号を設定します。1024-65535 の数値を入力してください。デフォルト値は、10625 です。



○ ユーザ名
CRP のリクエストメッセージに使用するユーザ ID を使用します。



○ パスワード
認証に使用するパスワードを設定します。



○ Keepalive
CRP 登録に成功してから、次に CRP 登録を試行するまでの時間を指定します。デフォルト値は 0 で、CRP 登録の再試行はしません。



第8章

ファイアウォール

アクセスリスト

1. IPv4 アクセスリスト

IPv4 アクセスリストの設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ファイアウォール
　アクセスリスト
　　・IPv4 アクセスリスト

■ IPv4 アクセスリスト



IPv4 アクセスリストの追加

「追加」をクリックします。



○アクセスリスト名
アクセスリスト名を指定します。

○動作
アクセスリストにマッチングするパケットの「許可」/「破棄」をプルダウンから選択します。

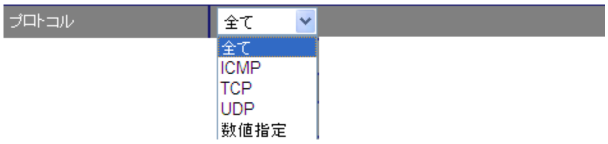


○送信元アドレス
送信元 IP アドレスを入力します。ホストアドレスのほか、ネットワークアドレスでの指定が可能です。
[入力例]
ホストアドレス　　　192.168.253.10
ネットワークアドレス　192.168.253.0/24
any の場合は、空欄のままにします。

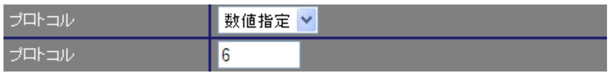
○宛先アドレス
宛先 IP アドレスを入力します。ホストアドレスのほか、ネットワークアドレスでの指定が可能です。
入力方法は、「送信元アドレス」と同様です。

[プロトコル]

○プロトコル
プロトコルをプルダウンから選択します。



○プロトコル
上記で「数値指定」を選択した場合に、プロトコル番号 <0-255> を入力します。



[ICMP オプション]

○ ICMP Type
0-255 の範囲で ICMP Type を指定します。
「プロトコル」で「ICMP」を選択した場合に、入力可能です。

○ ICMP Code
0-255 の範囲で ICMP Code を指定します。
「プロトコル」で「ICMP」を選択した場合に、入力可能です。

[送信元ポート]
○開始ポート / 終了ポート
1-65535の範囲で指定します。
「プロトコル」で「TCP」/「UDP」を選択した場合に、入力可能です。

[宛先ポート]
○開始ポート / 終了ポート
1-65535の範囲で指定します。
「プロトコル」で「TCP」/「UDP」を選択した場合に、入力可能です。

[TCPオプション]
○ TCP Syn
Synフラグをチェックする場合は「SYN」を選択してください。
「プロトコル」で「TCP」を選択した場合に、選択可能です。



設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IPv4アクセスリストの編集

「編集」をクリックします。

アクセスリスト名	動作	送信元アドレス	プロトコル	ICMP		送信元ポート	TCP	編集
		宛先アドレス		Type	Code	宛先ポート	Syn	削除
permit 削除	許可	192.168.0.0/24	tcp			1025-65535		編集
		192.168.100.0/24						削除

IPv4アクセスリストの削除

「削除」をクリックします。

アクセスリスト名	動作	送信元アドレス	プロトコル	ICMP		送信元ポート	TCP	編集
		宛先アドレス		Type	Code	宛先ポート	Syn	削除
permit 削除	許可	192.168.0.0/24	tcp			1025-65535		編集
		192.168.100.0/24						削除

第 9 章

システム設定

システム設定

◆本装置のパスワード

本装置の設定画面にログインする際のユーザ名、パスワードを変更します。
ルータ自身のセキュリティのためにパスワードを変更されることを推奨します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　・本装置のパスワード

■本装置のパスワード



○旧パスワード
現在のパスワードを入力します。

○新パスワード
半角英数字で1 から15 文字まで設定可能です。
大文字・小文字も判別しますのでご注意ください。

○新パスワード（確認用）
確認のため再度「新パスワード」を入力してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

本装置の操作を続行すると、ログイン用のダイアログ画面がポップしますので、新パスワードで再度ログインしてください。

◆ホスト名

本装置のホスト名を設定します。

■ホスト名



設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第９章 システム設定

Ⅰ. ログ

1. システムログ

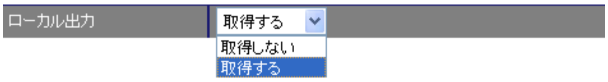
システムログの設定をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　ログ
　　　・システムログ

■システムログ

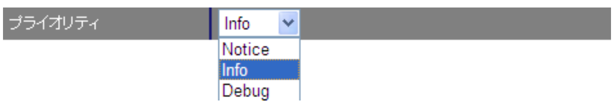


○ローカル出力
「取得する」「取得しない」をプルダウンから選択します。



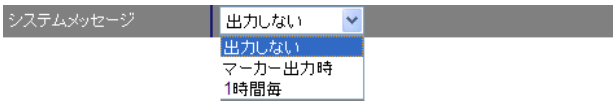
装置本体に記録しておけるログの容量には制限があります。
継続的にログを取得される場合は外部のsyslogサーバにログを送出するようにしてください。

○マーカー
syslog が動作していることを表す「-- MARK --」ログを送出する間隔を指定します。
0-99[分]の間で設定します。デフォルト値は20[分]です。



○プライオリティ
ログ内容の出力レベルをプルダウンから選択します。
プライオリティの内容は以下のようになります。
　・Debug　：デバッグ時に有益な情報
　・Info　　：システムからの情報
　・Notice：システムからの通知

○システムメッセージ
本装置のシステム情報を定期的に出力することができます。
「出力しない」/「 マーカー出力時」/「1時間毎」をプルダウンから選択します。



[外部シスログサーバ]

○外部シスログサーバ
シスログサーバのIP アドレスを指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2．ログメール

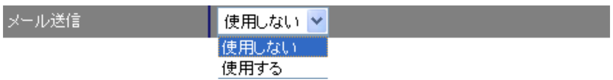
ログの内容を電子メールで送信したい場合の設定です。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　ログ
　　・ログメール

■ログメール



○メール送信
「使用する」「使用しない」をプルダウンから選択します。



○宛先メールアドレス
ログメッセージの送信先メールアドレスを指定します。最大文字数は 64 文字です。

○送信元メールアドレス
送信元のメールアドレスは任意で指定できます。最大文字数は 64 文字です。

○件名
任意で指定できます。使用可能な文字は半角英数字で、最大 64 文字です。

○検出文字列
ここで指定した文字列が含まれるログをメールで送信します。文字列を指定しない場合はログメールは送信されません。

検索文字列の設定
検出文字列を設定するには、「表示」をクリックします。



続いて、「追加」をクリックします。



○番号
1-32 の間で指定します。

○検索文字列
検出文字列には、pppd、IP、DNS などログ表示に使用される文字列を指定してください。なお、文字列の記述に正規表現は使用できません。
文字列は、半角英数字で 128 文字まで指定できます。空白・大小文字も判別します。
複数の文字(文字列)を指定すると、その文字(文字列)に完全一致したログのみ抽出して送信します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

検索文字列の編集
「編集」をクリックします。



検索文字列の削除
「削除」をクリックします。



II. 設定情報

1. 設定の保存

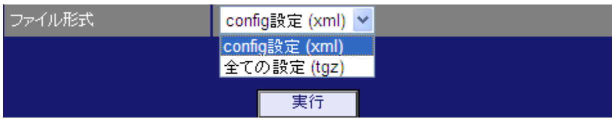
設定の保存をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　設定情報
　　・設定の保存

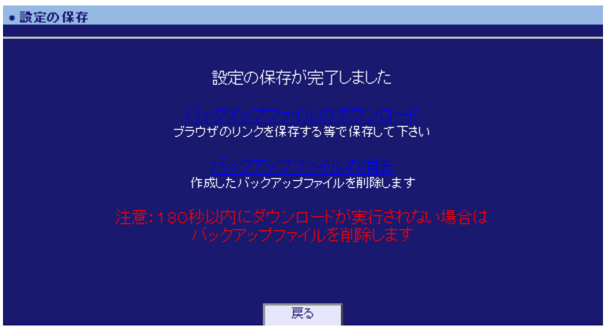
■設定の保存



○ファイル形式
プルダウンから「config設定(xml)」/「全ての設定（tgz)」を選択します。



「実行」をクリックします。



バックアップファイルのダウンロードを右クリックして、バックアップファイルを保存して下さい。

作成したバックアップファイルを削除するには、バックアップファイルの消去をクリックします。

2. 設定の復帰

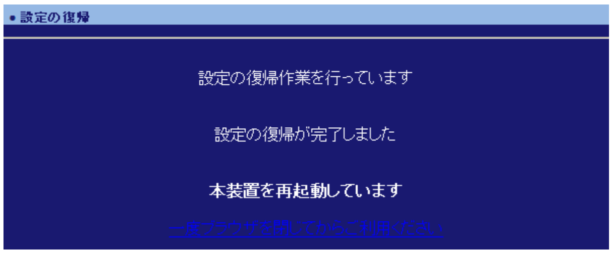
設定の復帰をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　設定情報
　　・設定の復帰

■設定の復帰



「参照」をクリックして、ファイルを指定します。
「実行」をクリックすると、設定の復帰作業がおこなわれます。



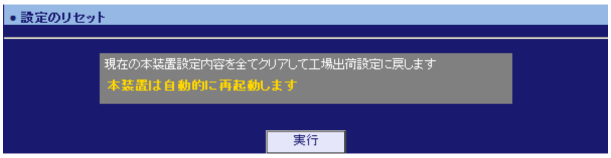
設定の復帰が完了すると、本装置が自動的に再起動します。

3．設定のリセット

設定をリセットします。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　設定情報
　　　・設定のリセット

■設定のリセット



「実行」をクリックすると、現在の本装置設定内容を全てクリアして工場出荷設定に戻します。本装置は自動的に再起動します。

本装置の工場出荷設定状態時では、HTTP サーバが起動していないため、GUI アクセスは出来ません。HTTP サーバの起動方法については、「第４章　設定画面へのログイン」を参照してください。

III．ファームウェア

1．アップデート

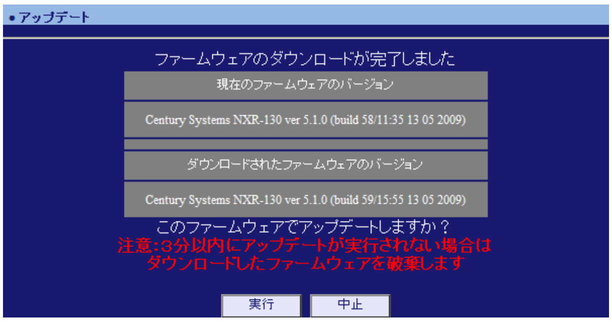
ファームウェアをアップデートします。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　ファームウェア
　　・アップデート

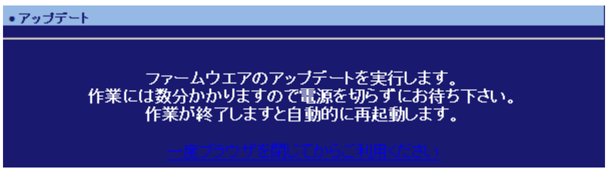
■アップデート



「参照」をクリックして、ファームウェアを指定します。「実行」をクリックすると、ファームウェアのアップデート画面が表示されます。



「実行」をクリックすると、ファームウェアのアップデートを開始します。



ファームウェアのアップデートが終了すると、本装置が自動的に再起動します。

システム設定

◆内蔵時計

内蔵時計の設定をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　　・内蔵時計

■内蔵時計



24時間単位で時刻を入力してください。
「保存」をクリックすると、時刻が設定されます。

◆再起動

本装置を再起動します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定
　　・再起動

■再起動



「実行」をクリックすると、本装置が再起動します。

第 10 章

運用機能

I. ネットワーク診断

1. Ping

指定した宛先に対して、本装置からPingを実行します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能
　ネットワーク診断
　　・Ping

■Ping



○送信先
FQDN(www.xxx.co.jp などのドメイン名)、もしくはIP アドレスを入力します。

○送信回数
送信するpingパケット数を指定します。
1-10の範囲で指定します。デフォルト値は10です。

「送信先」および「送信回数」を指定して、「実行」をクリックします。

2. Traceroute

指定した宛先までに経由するルータ情報を表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能
　ネットワーク診断
　　・Traceroute

■Traceroute



○送信先
FQDN(www.xxx.co.jp などのドメイン名)、もしくはIP アドレスを入力します。

「送信先」を入力して、「実行」をクリックします。

II．パケットダンプ

1．実行

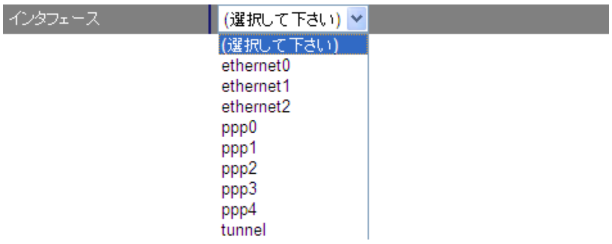
パケットのダンプを取得します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能
　パケットダンプ
　　・実行

■実行

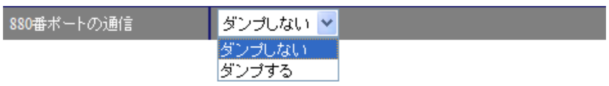


○インタフェース
ダンプを取得するインタフェースをプルダウンから選択します。

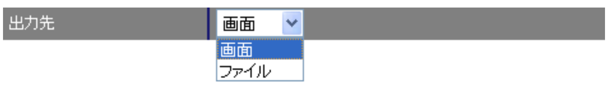


○パケット数
キャプチャするパケット数を、1-1000 の範囲で指定します。デフォルト値は 10 です。

○ 880 番ポートの通信
「ダンプする」/「ダンプしない」をプルダウンから選択します。

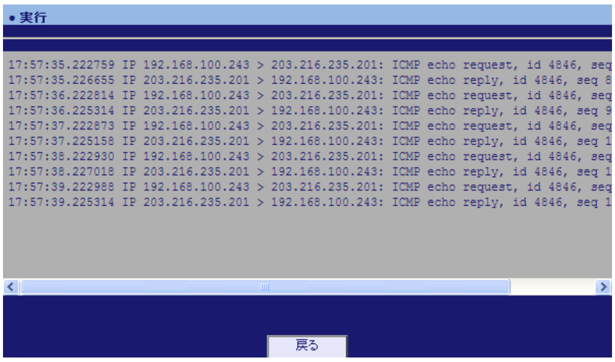


○出力先
出力先をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックします。

「出力先」として「画面」を選択した場合は、実行結果が画面に表示されます。



2．結果表示

「出力先」として「ファイル」を選択した場合は、「結果表示」からファイルを取得します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能
　パケットダンプ
　　・結果表示

■結果表示

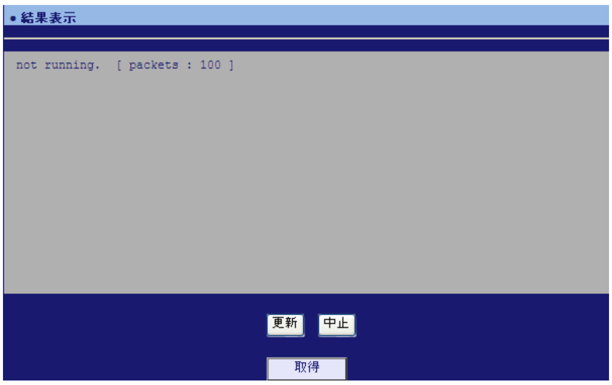
[パケットダンプ取得中の表示例]



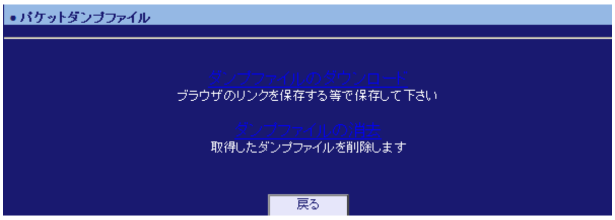
現在の状態を表示するには「更新」をクリックします。

パケットダンプを中止するには「中止」をクリックします。

[パケットダンプ取得終了の表示例]



ファイルを取得するには「取得」をクリックします。



ダンプファイルのダウンロードを右クリックして、ファイルを保存してください。

ダンプファイルの消去をクリックすると、取得したダンプファイルが削除されます。

第10章 運用機能

III．ログ情報

1．システムログ

システムログを表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

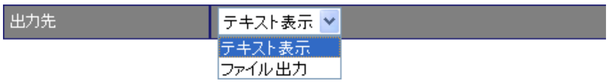
運用機能
　ログ情報
　　　・システムログ

■システムログ



○出力先

システムログの出力先をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックします。

IV．システム情報

1．システム情報

システム情報を表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

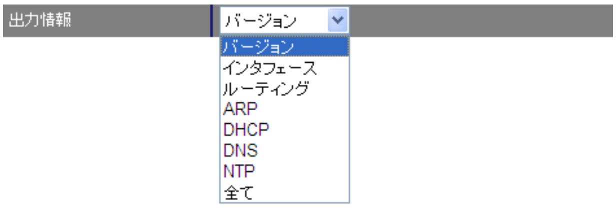
運用機能
　システム情報
　　・システム情報

■システム情報



○出力情報

出力情報をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックすると、選択した情報が表示されます。

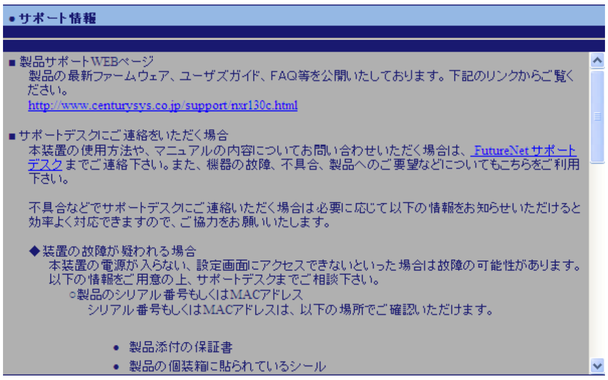
サポート情報

◆サポート情報

サポート情報を表示します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能
　・サポート情報

■サポート情報



付録

サポートについて

付録

サポートについて

◆今後のお客様サポートおよび製品開発の参考にさせていただくために、ユーザー登録にご協力をお願い致します。 弊社ホームページ内の各製品のサポートページで ”ユーザー登録 ”をクリックすると登録用の画面が開きます。

◆サポートに関する技術的なお問い合わせやご質問は、下記へご連絡ください。

・サポートデスク
e-mail　：support@centurysys.co.jp
電話　：0422-37-8926
FAX　：0422-55-3373
受付時間 ：10:00 ～ 17:00 (土日祝祭日、および弊社の定める休日を除きます)

・ホームページ　http://www.centurysys.co.jp/

◆故障と思われる場合は
製品の不良や故障と思われる場合でも、必ず事前に弊社までご連絡ください。
事前のご連絡なしに弊社までご送付いただきましてもサポートをお受けすることはできません。

◆ご連絡をいただく前に
スムーズなお客様サポートをご提供するために、サポートデスクにご連絡いただく場合は以下の内容をお知らせいただきますよう、お願いいたします。

・ファームウェアのバージョンとMACアドレス
・ネットワークの構成(図)
　どのようなネットワークで運用されているかを、差し支えのない範囲でお知らせください。
・不具合の内容または、不具合の再現手順
　何をしたときにどういう問題が発生するのか、できるだけ具体的にお知らせください。
・エラーメッセージ
　エラーメッセージが表示されている場合は、できるだけ正確にお知らせください。
・本装置の設定内容、およびコンピュータのIP設定
・**可能であれば、「設定のバックアップファイル」をお送りください。**

◆サポート情報
弊社ホームページにて、製品の最新ファームウェア、マニュアル、製品情報を掲載しています。
また製品のFAQも掲載しておりますので、是非ご覧ください。
FutureNet NXR-130/C製品サポートページ
http://www.centurysys.co.jp/support/nxr130c.html

◆製品の保証について
本製品の保証期間は、ご購入から販売終了後5年間までです。
(但し、ACアダプタ及び添付品の保証期間はご購入から1年間とします。)
保証期間内でも、保証書に販売店印のないもの(弊社より直接販売したものは除く)、また保証の範囲外の故障については有償修理となりますのでご了承ください。
保証規定については、同梱の保証書をご覧ください。

FutureNet NXR-130/C ユーザーズガイド GUI編 v5.4.0対応版

2009年12月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社